

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人 可児市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域多文化共生人材育成事業
事業の目的	今後も外国人の受け入れによる人数増加や定住化傾向が高まると考えられ、日本で生まれ育った子どもたちは、日本での進学や将来の夢を抱くであろう。子どもが安心して学校に通い、安心して生活を送るためには、親への働きかけが重要になってくる。この親たちをはじめとして、地域に暮らす生活者としての外国人には、ただ単に日本語を習得するだけでなく、様々な日本文化も理解してもらいたい。指導者からの一方的な詰め込みではなく、お互いの文化を享受するための機会として、地域日本語教室の役割は大きい。人材育成という観点で、外国人(学習者)も日本人(指導者・サポーター)も主体性、自立性をもった能力の向上が図れるように本事業で切磋琢磨しながら、個人的能力の発揮へとつなげていく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	数年前に一旦帰国し、母国での生活難から、今度は子どもを連れて来日する家族や日本での生活が安定してきたため、家族を呼び寄せたり、依然として実習生や配偶者の在住など様々な背景をもつ外国人が増えている。最近では、減少していた日系ブラジル人が増加している。昨年度、日本語教室内で、防災やお料理教室など、活動から得る日本語を学んでもらおうとしても、スケジュールを見て、「今日は日本語の勉強ではない。」と判断され、帰ってしまう学習者も多々いたことなど、彼らが考える日本語学習とは、テキストを開いた読み書きや会話であって、そうではないと、満足しないのだろうか。地域の日本語教室として、生活に即した日本語が、彼らに取り入れられるスタイルで、提供できるような形を検討しなければならない。
本事業の対象とする空白地域の状況	昨年度に引き続き、八百津町での日本語教室の立ち上げに関わっていくつもりで、役場や国際交流協会に働きかけをしたが、なかなか私たちの思いは届かなかった。そのため、他の空白地域：岐阜県坂祝町で取り組むことにした。岐阜県坂祝町は、美濃加茂市の隣にあり、パジェロ工場などがあり、在住外国人は約500人、比率としては6%で岐阜県内第2位。中日本自動車短大があり、留学生が約150人程いるので、それを除くと350人程。人数は少ないが、ニーズはあるだろうということで、まずは、日本語支援者を募集し、日本語教室を立ち上げるための準備、日本語サポーター養成講座を実施する。
事業内容の概要	日本語初級クラスで学習した後、中上級クラスへ上がり、日本語力をつけた学習者が自分ほこれだけ学習しましたという学習歴や評価が地域で認められるような仕組みを作る。例年、学習者が継続して日本語教室に通わない。途切れ途切れの学習では、なかなか日本語も身に付かない。学習者にも達成感や満足感が視覚的に捉えられるようなものがあれば、学習意欲につながるのではないかと考える。また、ボランティアなどの地域の貢献度も評価していけるような、人材リソース的な”証”を作りたい。どんな方法で発行していくか、検討する。 取組1：(仮称)”認定証”発行に向けた検討会 取組2：日本語教室の開催（土曜日・日曜日・中上級者向け・子育て） 取組3：演劇手法を用いた防災ワークショップ 及び 防災まちあるき 取組4：日本語見本市 空白地域：坂祝町日本語サポーター養成講座
事業の実施期間	平成28年6月～平成29年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク
2	小島 祥美	愛知淑徳大学
3	松井 かおり	朝日大学
4	木村 美穂	岐阜県国際交流センター
5	リバーモア ハニト	八百津町元交流員
6	加藤 エジソン	可児市役所
7	山田 久子	多文化演劇ユニットMICHU
8	各務 眞弓	可児市国際交流協会
9	近藤 利恵	可児市国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	H28年7月29日(金) 10:00~12:30	2.5時間	可児市多文化共生センター	米勢 治子、小島 祥美、木村 美穂、 山田久子、各務 眞弓、近藤 利恵	(1) 運営委員紹介 (2) 今年度の取組確認
2	H29年1月17日(火) 10:00~12:30	2.5時間	可児市多文化共生センター	米勢 治子、小島 祥美、木村 美穂、 リバーモア ハニト、加藤 エジソン、 山田久子、各務 眞弓、近藤 利恵	(1) 各取組実施報告 (2) 日本語見本市について検討 (3) 今後の取組について
3	H29年3月14日(火) 10:00~12:30	2.5時間	可児市多文化共生センター	米勢 治子、木村 美穂、 リバーモア ハニト、加藤 エジソン、 山田久子、近藤 利恵	(1) 各取組実施報告 (2) 取組の成果、課題について (3) 来年度へ向けて

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>運営委員会は、行政、日本語教育専門家、研究者、演劇関係者、空白地域の関係者で構成される。(仮称)“認定証”が発行されると地域社会の理解と協力が不可欠になる。行政を巻き込み、地域一体となって、認知度を上げていくための連携構築を図る。“認定証”発行に結び付く日本語の評価法も有識者会議で検討するだけでなく、運営委員会の様々な分野のメンバーにもご確認いただき、検討を重ねていく。地域の連携が不可欠な災害時の体制や情報提供のための日本語学習者を演劇ユニットMICHUとともに実施したり、日本語教室では、子育てに関することやお料理教室、専門講師が関わり、多様な日本語支援体制を作る。日本語見本市では、あらゆる分野の関係者が来場されるため、取組の発信の絶好の場であり、そこで得た情報を運営委員会にフィードバックし、検証するという体制を取る。</p>
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>中核メンバーが中心となり、教室運営に携わる各教室に配置された教室リーダーに、本事業の主旨、地域連携の重要性を理解させていく。理解させるために、中核メンバー主導のもと、教室リーダー会議を開き、随時、教室運営の確認をしていく。従来、教室に関わる指導者・サポーターには、教室運営は、事務局が主体だと捉えられ、常に、受身の態勢で、学習者への呼びかけなど、他人事のように感じられた。そうではなく、教室運営は、教室リーダーをはじめとするその教室に関わる指導者・サポーターが主体となってほしい。中核メンバーは、学習者が日本語教室で学んだ知識や経験をどう地域社会で活かされるのかを運営委員会で議論、確認し、地域社会での活躍の場が提供できるような連携を地域社会に構築する。</p>
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称	多文化共生人材育成推進委員会								
	取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ■(仮称)”認定証”発行に向けた日本語教室の最終目標の検討 ■各会議体で、教室運営の見直し及び検証をする 								
	取組の内容	<p>学習者が日本語教室に継続して来るための仕組みを作るために、会議を以下のとおり行った。</p> <p>①教室リーダー会議：(取組2)日本語教室のリーダーたちで話し合う場として、3回実施。 教室運営方法や教室間の連携を見直したり、教室の最終到達目標の検討を行う。 ポートフォリオを活用した場合、どんな効果が得られるのか、運用方法を考えた。</p> <p>②行政会議：行政を含めたメンバーで話し合う場として、2回実施。 継続して日本語教室に来るための仕組みとして、ポートフォリオの取り組みをどのように地域に発信していくか。どのような内容にするかを検討した。</p> <p>③学習者座談会：日本語学習者を集めて、当協会の日本語教育体制について、意見交換をする場として、2回実施。 本事業の日本語教室に来た動機、その日本語教室に求めるものは、何か。 私たちは、日本語教室に継続して来てほしいと思っているが、なぜ、来たり来なかったりするの。 ポートフォリオの取り組みをどう思うか。</p>								
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備	全体(中核)コーディネーターと教室リーダーとのつながり、教室間に一貫性をもたせた運営を行い、指導者とサポーターには、この日本語教育体制は、地域との連携が不可欠であることを理解してもらい、全員が一丸となって取り組める体制を作る。								
	取組による日本語能力の向上	特になし								
	参加対象者	教室リーダー、行政、地域住民、日本語学習者	参加者数 (内 外国人数)	16人 (11人)						
	広報及び募集方法	電話、メール、日本語教室からの呼びかけ								
	開催時間数	総時間 11.75 時間(空白地域 0 時間)								
	主な連携・協働先	可見市役所、日本語教室								
開催場所	可見市多文化共生センター フレビア									
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
	1	3			1				6	
日本(5人)										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成28年7月16日(土) 12:00～14:00	2	可見市多文化共生センター	3	①教室リーダー会議 認定証発行検討	教室の最終到達目標を決定。 教室の運営方法やCanDoリストについて検討する。	[会議参加者] 近藤 利恵 大澤 まゆみ 菟田 さよ	—		
2	平成28年8月27日(土) 12:00～14:00	2	可見市多文化共生センター	3	①教室リーダー会議 認定証発行検討	ポートフォリオの活用について検討	近藤 利恵 大澤 まゆみ 菟田 さよ	—		

3	平成28年10月22日(土) 12:30~14:00	1.5	可児市多文化共生センター	3	①教室リーダー会議 認定証発行検討	認定テスト作成方法について検討 行政会議につなげたいこと	近藤 利恵 大澤 まゆみ 菟田 さよ	—
4	平成28年12月13日(火) 13:00~15:45	2.75	可児市多文化共生センター	4	②行政会議 認定証発行検討	本事業取組進捗状況について報告 教室リーダーミーティングでの 内容報告 認定証発行に向けた検討会の 進め方について	加藤エジソン 中村 裕 各務 眞弓 近藤 利恵	—
5	平成29年1月24日(火) 10:00~11:30	1.5	可児市多文化共生センター	4	②行政会議 認定証発行検討	教室運営方法見直し ポートフォリオ活用について検討 チャレンジテスト運用について検討	加藤エジソン 中村 裕 各務 眞弓 近藤 利恵	—
6	平成29年1月15日(日) 14:30~15:30	1	可児市多文化共生センター	6	③座談会	日本語教室へのニーズを聞き取る 及び ポートフォリオについて どう思うか、確認	近藤 利恵 ブー チョン ロン ケン フェー ファン コダマ マリコ ロニエル バル ブイトゥアン アイン	—
7	平成29年1月29日(日) 13:30~14:30	1	可児市多文化共生センター	6	③座談会	日本語教室へのニーズを聞き取る 及び ポートフォリオについて どう思うか、確認	近藤 利恵 ナカイ マサオ 重 鵬程 ナサメント ビビアナ サロマトドリゲス クダ マサシ	—

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第4回 H28年12月13日、第5回 H29年1月24日】

《行政会議》

誰に見せるための認定証なのか。現在、学習者は、日本語教室に継続してどのぐらい来ているのか、学習歴、地域貢献など総合評価をどのように示していくか。日本語能力判定ではない。生活者とは、就労していくことを目的とし、採用される日本語を基準にした評価を定めるのか。それに反映した日本語教室の運営となっているか。教室リーダーがこの取組を理解していなければならない。認定証ではなく、ポートフォリオの活用に変えていったらどうか。学習者はどう反応するだろうか。学習者たちにも座談会という形でヒアリングをした方がよい。翌年度試行に向けて、検討内容がまとまってきた。



○取組事例②

【第6回 H29年1月15日、第7回 H29年1月29日】

《学習者との座談会》

運営側の日本人だけが、ポートフォリオの取り組み、学習者が日本語教室に継続して来られるような仕組みを

良いと思っていても、肝心の学習者はどう思っているのか、確かめるために、座談会を2回行った。

当初、1回の予定だったが、1回目は技能実習生が多かったため、再度座談会を行い、2回目は、定住外国人の参加が多かった。

1回目の技能実習生は、ポートフォリオの取り組みを地域の企業に伝えてもらえるということで、僕たちの日本語学習への

意欲が企業にも評価されることは、給料アップや残業できることにつながるから嬉しいという意見が出た。

2回目の定住外国人は、企業への評価よりも、自分の日本語学習への効果を顧みて、生活の中に日本語を取り入れることで、

生活の幅が広がるのではないかと期待だった。地域に暮らすということは、地域の人々と日本語で交流していけるということ。

日本語が向上すれば、保護者としても学校とよりよい関係が築ける。また、日本人とコミュニケーションの楽しさが得られる。

ポートフォリオの活用によって、自分がどの部分が弱いのか把握できるため、自己評価の悪かった項目は、再度勉強できる

ような授業内容を先生たちが、準備してくれると嬉しいという意見だった。



(2) 目標の達成状況・成果

もともと学習者が日本語教室に継続して来てくれる仕組みを作りたいかった。しかし、日本語教室のメンバーとも話し合わないことには、いくら行政会議で仕組みを決めても、この取組自体、日本語教室のメンバーに受け入れてもらえない、うまく活用してもらえない可能性もある。行政会議では、「誰に見せるための認定証(日本語力評価)」なのか。を議論し、そのためには、日本語教室で、どんな運営をすればいいのかを教室リーダーが話し合い、また、学習者にも2回集まってもらい、私たちが考える仕組みの素案を伝え、良し悪しを確認した。現在、土曜日・日曜日・中上級教室を運営しているが、一つ一つ単体で動いているものを今後は、3つの教室を連動させる。学習者一人一人を把握するために、ポートフォリオを活用した教室運営を行う。それに伴い、授業構成も3つの教室が連携・連動できるような内容に見直した。このようなことが、会議を進めていく中で、まとまったが、今後、従来の方法と大きく変わっていくので、関わるメンバーが戸惑わないように、体制を早く整えていかなければならない。

(3) 今後の改善点について

会議を重ね、いろんな立場の方々から話を確認しているが、現在、イメージや構想で終わっているため、来年度は、何とか形にして、試行期間を経たのち、本格始動に入っていきたい。今年度、日本語力評価テストの検討までは、至らなかった。来年度は、ポートフォリオの取り組みを入れつつ、総合的に判断できるような評価テスト、テストは、強制的ではないという要素を織り込みながら、検討していきたい。

<取組2>

取組2	取組の名称		日本語教室	
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・教室で学習した日本語が、学習者の日々の生活に生き、安心・安全に暮らすことができる。 ・日本語習得だけではなく、地域市民に協力をしていただいたり、体験型の活動を取り入れることで、日本の習慣を身に付け、日本での生活を充実したものにする。 ・日々の生活に関わる日本語学習をすることで、今までの疑問や悩みと結びつけながら、理解を深めていく。 	
	取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> ■土曜日日本語教室(19:00~20:30) <ul style="list-style-type: none"> ・会話と文字を学習する。レベル別にグループ分けをし、一つのグループに一人の指導者がつく。 進め方や内容は、教室リーダーの管理のもと、各指導者が決めて進める。 月に一回程度、季節感のある日本文化や習慣を伝える日もあった。 ■日曜日日本語教室(13:30~15:30) <ul style="list-style-type: none"> ・生活に沿ったテーマでの会話。まずは全体で、今日のテーマを確認。指導者が使える表現や語彙を紹介する。その後、国籍が偏らないように、レベル別にグループを分け、一つのグループに一人のサポーターがつき、サポーターが誘導しながら、会話を展開させる。折々、体験型学習を取り入れた。その体験型学習では、2~3回続くシリーズにした。シリーズではあるが、学習者がいつ来ても、どのレベルであっても受け入れができるように、シリーズ一回目は会話、二回目は文型・語彙、三回目は文字。漢字にも取り組むようにして、一回ごと、技能別に習得できるようにした。 ■中上級者向け日本語教室(日曜日 15:45~16:45) <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日日本語教室で学習した人が、引き続き、このクラスでも勉強できる時間帯に設定。 文化庁発刊:「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案から、このクラスで扱うといいと思われるいくつかの項目を取り上げ、主に語彙、表現を学習。 ■子育ての日本語教室(土曜日 10:00~12:00) <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関係した日本語を学習する。日本の学校文化や性教育、虐待について、日本と自国の習慣を比較して、お互いの習慣を認め合いながら、理解につなげた。 	
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動		
	取組による体制整備		土曜日、日曜日、中上級の連携体制を強化する。教室の主な進行・内容の企画は、教室リーダーとサポーターで行う。教室リーダーは、中核コーディネーター及び事務局との連携・連絡、そして教室の情報発信も行う。	
	取組による日本語能力の向上		<ul style="list-style-type: none"> ■土曜日:文字の読み書き、会話や文法 ■日曜日:生活に即したテーマでの会話 ■中上級:生活に役立つ言葉や表現 ■子育て:子育てに関する日本語や日本の習慣・文化 	
	参加対象者		日本語を学習したい外国人	参加者数 (内 外国人数) <ul style="list-style-type: none"> ■土曜日: 146人(145人) ■日曜日: 157人(157人) ■中上級: 60人(60人) ■子育て: 73人(73人)
	広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政	
	開催時間数		総時間 132.5 時間(空白地域 0 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ■土曜日 37.5時間 ■日曜日 52時間 ■中上級者 21時間 ■子育て 22時間
	主な連携・協働先		可児市役所、可児市健康増進課保健センター、可児市防災の会、可児警察署、可茂南消防署、中濃振興局子ども相談センター、ミールの会、多文化演劇ユニットMICHIE、発達専門家、可児市内ダイソー、名鉄新可児駅・JR可児駅	
開催場所		可児市多文化共生センター、可児市総合会館分室、可児市福祉センター、可児市勤労者総合福祉センター		

■土曜日 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	11	15			65	9		42
アメリカ(1人)、台湾(1人)、トルコ(1人)、日本(1人)								
■日曜日 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	15	39			39	5		47
アメリカ(1人)、オーストラリア(1人)、カメルーン(1人)、台湾(6人)、トルコ(1人)、パラグアイ(1人)、バングラディシュ(1人)								
■中上級 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	8	19			11		1	15
台湾(6人)								
■子育て 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
					55			17
パキスタン(1人)								

実施内容 ■土曜日

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月18日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	42	文字・語彙・文法	・ひらがな、カタカナ、拗音 ・形容詞、助数詞 ・自己紹介	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 高見友子 村上ウァネッサ	永田俊司
2	平成28年7月2日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	32	語彙・文法	・日本文化を伝える: 暑中見舞い カード作り ・L1~8課復習 ・名詞: 食べ物、飲み物、野菜、果物 ・これはNです、これはNですか。	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 林里美 大野伸次	永田俊司
3	平成28年7月9日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	40	文字・語彙・文法	・ひらがな、カタカナ、拗音 ・数詞、数量詞 ・~よりいちばん ・時間	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 高見友子 大野伸次	永田俊司
4	平成28年7月23日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	25	文字・語彙・文法・会話	・ひらがな、拗音 ・会話: 普通体 ・会話: レストランでの注文方法 ・動詞: 否定形、過去形	大澤まゆみ 田牧恵子 高見友子 大野伸次	永田俊司
5	平成28年8月6日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	10	文字・文法・会話	・ひらがな ・音読 ・会話: 夏祭りのこと、テ形 ・会話: レストランでの注文方法	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
6	平成28年8月20日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	16	文字・文法・会話	・ひらがな、拗音 ・形容詞 ・テ形	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
7	平成28年9月3日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	16	防災ワークショップ	・ある外国人一家の災害発生時の行動を見ながら、備えることの大切さを確認 ・災害発生時の行動(地震: 頭を隠す、洪水: 高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える	山田久子 住吉エリオ 村上ウァネッサ 大澤まゆみ 高林喜四夫 大野伸次	住吉エリオ 村上ウァネッサ 細田チアゴ 永田俊司
8	平成28年9月10日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	16	語彙・文法	・物の名前 ・指示語 ・て形	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
9	平成28年9月17日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	6	文字・語彙・文法	・ひらがな、カタカナ ・物の名前 ・会話: ~へ行きます。	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司

10	平成28年10月1日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	10	文字・語彙・文法	・日本文化を伝える:お月見の話 ・漢字 ・物の名前 ・Yes,No疑問文	大澤まゆみ 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
11	平成28年10月15日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	18	文法・会話	・助詞の使い方 ・会話:病気の症状	田牧恵子 大野伸次	永田俊司
12	平成28年10月22日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	12	文字・語彙・文法・会話	・ひらがな ・時制 ・物の名前 ・誰がいつどこで何を	大澤まゆみ 高林喜四夫 大野伸次 林里美	永田俊司
13	平成28年11月12日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	14	文字・語彙・文法	・日本文化を伝える:俳句の作り方 ・漢字 ・数詞 ・存在 ・ナイ形	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
14	平成28年11月19日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	8	文字・語彙	・ひらがな ・身体に関する言葉	大澤まゆみ 高林喜四夫 大野伸次	永田俊司
15	平成28年11月26日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	12	語彙・文法・会話	・物の名前、身体に関する言葉 ・会話練習 ・疑問文の作り方 ・自動詞、他動詞	大澤まゆみ 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
16	平成28年12月3日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	2	文字・語彙	・日本文化を伝える:年賀状作成 ・ひらがな ・身体に関する言葉	田牧恵子 大野伸次	永田俊司
17	平成28年12月10日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	7	文字・語彙・文法・会話	・文字 ・数字の読み方 ・挨拶のしかた ・家族の総称 ・物の名前 ・すみません、~をください。	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
18	平成28年12月17日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	8	文字・語彙・文法・会話	・ひらがな ・物の名前 ・指示語 ・挨拶のしかた ・時計 ・~から~まで	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
19	平成29年1月14日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	4	文字・文法	・ひらがな、カタカナ ・~になる	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
20	平成29年1月21日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	6	文字・語彙・文法・会話	・ひらがな、漢字 ・いろいろな名詞 ・それはいくらですか。	大澤まゆみ 高林喜四夫 大野伸次	永田俊司
21	平成29年1月28日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	6	語彙・文法・会話	・方角 ・ここ、そこ、あそこ ・~は、どこにありますか。 ・いろいろな名詞	大澤まゆみ 高林喜四夫 大野伸次	永田俊司
22	平成29年2月4日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	9	文字・文法・会話	・ひらがな、カタカナ ・行きます、来ます、帰ります	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
23	平成29年2月18日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	13	文字・語彙・文法・会話	・ひらがな、漢字 ・いろいろな名詞 ・私は~を見ます。	大澤まゆみ 高林喜四夫 大野伸次	永田俊司
24	平成28年3月4日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	14	文字・語彙・文法・会話	・日本文化を伝える:ひなまつり ・ひらがな、漢字 ・身体の名称 ・動詞	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司
25	平成28年3月11日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	19	文字・語彙・文法・会話	・ひらがな、カタカナ、漢字 ・いつどこで誰が何を ・会話練習	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子 大野伸次	永田俊司

実施内容 ■日曜日

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月26日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	26	会話・作文	<病院について> 症状をどのように伝えるのか、 多言語問診票や、薬の袋に書いてある 日本語を確認した。	菰田さよ	石川英明 神谷明子 中西絢子 古沢光子 横田裕子 杉江俊明 渡辺美也子
2	平成28年7月3日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	29	会話・作文	<七夕> 七夕の日本の文化を体験。 「～が欲しい」「～したい」を使って 短冊に願い事を書いた。	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 中西絢子 安居純 山田久子 渡辺美也子
3	平成28年7月10日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	26	会話・体験	<交通安全講習> 警察官の方を講師に迎え、日本での 交通ルールや、自転車で起きやすい 事故について体験しながら学習した。	(松尾景子) 菰田さよ	木村蕃 古沢光子 山田久子 渡辺美也子
4	平成28年7月24日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	18	会話・作文	一日の生活	菰田さよ	石川英明 神谷明子 中島薫 古沢光子 安居純 渡辺美也子
5	平成28年7月31日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	18	会話・作文	祭りについて	菰田さよ	玉置啓二 古沢光子 渡辺美也子
6	平成28年8月21日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	20	会話・作文	家族について	菰田さよ	石川英明 中島薫 細野高宏 渡辺美也子
7	平成28年8月28日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	24	会話・作文	食事について	菰田さよ	石川英明 木村蕃 安居純 渡辺亜紀 細野高宏
8	平成28年9月4日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	27	防災	<防災ワークショップ> 災害発生時の行動をイス取りゲームを しながら学び、同時に災害発生時に 聞こえてくる音を確認する。 また、避難所に逃げる際、かばんの中に 何を持っていけばいいの、日用品が 書かれているカードから選び、必要な ものを考えた。	[講師] 山田久子 住吉エリオ 村上ウァネッサ [指導者] 菰田さよ	住吉エリオ 村上ウァネッサ 中美保子 細田チアゴ 石川英明 玉置啓二 渡辺美也子
9	平成28年9月11日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	19	防災	<防災まちるき> 指定されたルートをチェックポイントを 探しながら、市内を歩いた。 チェックポイントは防災に関するもの であり、実際に見たり説明を聞いた。 道中、人に道を尋ねられた時に、 日本語で受け答えをした。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ 村上ウァネッサ 朝日秀男 [指導者] 菰田さよ	住吉エリオ 村上ウァネッサ 長谷川あつ子 杉元賢人 石川英明 中島薫 古沢光子 渡辺美也子
10	平成28年9月25日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	14	防災	<緊急速報を読んでみよう> 実際に訓練で使用したやさしい日本語の 速報がどれくらい理解できるのか。 「決壊」「土砂崩れ」のやさしい日本語を 学習者に考えてもらった。	菰田さよ	神谷明子 木村蕃 玉置啓二 中島薫 中西絢子 古沢光子 渡辺美也子
11	平成28年10月2日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	16	会話・作文	忘れられない思い出	菰田さよ	神谷明子 中西絢子 渡辺美也子
12	平成28年10月16日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター 名鉄新可見駅	25	会話・体験	<駅に行ってみよう> 普段利用する駅・電車にある表示の 見方や、「特急」「急行」の違いを 実際に駅に行ってみて確認した。	菰田さよ	神谷明子 木村蕃 中島薫 中西絢子 古沢光子 安居純 山田久子 渡辺美也子

13	平成28年10月23日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	22	会話・作文	<ごみの出し方> ごみの出し方について、ゲームをしながら、「可燃」「不燃」等の日本語を学習した。	菰田さよ	神谷明子 玉置啓二 中島薫 古沢光子 安居純 山田久子 渡辺美也子
14	平成28年10月30日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	4	文化体験	<多文化共生フェスティバル> フェスティバルで模擬出店をし、販売を通しての日本語学習。	-	南谷弘子 西尾範子 都築典子 菰田さよ 古沢光子 山田久子 安居純
15	平成28年11月6日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	28	会話・作文	<料理> 日本・国の好きな料理について。調理方法の日本語を学習、レシピを作成。	菰田さよ	石川英明 木村蕃 玉置啓二 山田久子 渡辺美也子
16	平成28年11月13日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	16	文化体験	<ベトナム料理> ベトナム人学習者2名と講師たちで料理体験を通して日本語学習をする。	菰田さよ	南谷弘子 都築典子 木原幸子 神谷明子 中島薫 渡辺亜紀 渡辺美也子
17	平成28年12月4日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	8	会話・作文	夢・目標	菰田さよ	神谷明子 玉置啓二 渡辺美也子
18	平成28年12月18日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	6	会話・作文	<お正月> 今年のお正月の予定や、母国ではどんなお正月を過ごすかについての会話。	菰田さよ	木村蕃 玉置啓二 中島薫 古沢光子 渡辺美也子
19	平成28年1月15日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	5	会話	<多読・座談会> 多読教材を読んで、内容を話す。来年度の日本語教室について聞き取り。	菰田さよ	神谷明子 玉置啓二 横田裕子 渡辺美也子
20	平成28年1月22日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	14	会話・作文	<買い物> 最近買ったものや年末年始にしたこと	-	神谷明子 中島薫 古沢光子 安居純 渡辺美也子
21	平成28年1月29日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	16	会話・作文	<荷物を送る・受け取る> 郵便局や宅急便からの不在通知があった時、どのように対応するかの電話ロールプレイやそれに関わる日本語について。	菰田さよ	神谷明子 玉置啓二 古沢光子 安居純 渡辺美也子
22	平成28年2月5日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	8	会話・作文	<110番・119番> 事故や火事が起きた時、どう対処するのか、どこに電話するのかについて。場面設定をして、ロールプレイを行った。	菰田さよ	神谷明子 木村蕃 玉置啓二 中島薫 山田久子 渡辺美也子
23	平成28年2月12日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	10	見本市に向けて①	<日本語で発表しよう①> ①これからしたいこと・なりたいもの ②日本と母国の違い のテーマに沿って話し、作文で表現した。	菰田さよ	石川英明 古沢光子 安居純 渡辺美也子
24	平成28年2月19日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	15	見本市に向けて②	<日本語で発表しよう②> ①最近嬉しかったこと ②日本語教室に来た理由と目標 ③これからしたいこと のテーマに沿って話し、作文で表現した。	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 古沢光子 山田久子 渡辺美也子
25	平成28年3月5日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	5	会話・作文	<診療室での会話> 病院やクリニックに行ったとき症状を日本語で伝えることをロールプレイを通して行った。ズグズキやムズムズなど、症状を詳しく言う言い方。	菰田さよ	石川英明 神谷明子 永田泰聖 渡辺美也子
26	平成28年3月12日 (日) 13:30~15:30	2	可見市多文化共生センター	10	会話・作文	<避難訓練(火災)> 放送言語を聞き取る、読んで理解する。 <旅行したいところ> 旅行で行ってみたいところ、その理由。お勧めの場所を紹介する。	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 中島薫 古沢光子 山田久子 永田泰聖 渡辺美也子

実施内容 ■中上級

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年7月3日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	5	健康を保つ①	症状が伝えられる 病院での会話表現・語彙	長谷川すま子	—
2	平成28年7月10日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	5	健康を保つ②	診察室での会話表現・語彙	長谷川すま子	—
3	平成28年7月24日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	7	健康を保つ③	会計・薬局での会話表現・語彙	長谷川すま子	—
4	平成28年7月31日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	9	消費活動①	お金に関することば	小野木政子	—
5	平成28年8月21日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	13	消費活動②	看板・ポスター・チラシ・番組の 読み取り・聞き取り	小野木政子	—
6	平成28年8月28日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	13	消費活動③	お店の人に希望を伝えて頼む	小野木政子	—
7	平成28年9月4日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	15	目的地に移動する①	公共交通機関を利用するための 会話表現・語彙	田中安希子	—
8	平成28年9月11日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	15	目的地に移動する②	タクシーを利用するための 会話表現・語彙	田中安希子	—
9	平成28年9月25日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	9	目的地に移動する③	自力で移動する	田中安希子	—
10	平成28年10月2日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	7	作文	作文コンテストに応募するために 作文を書く。 テーマ: 忘れられない思い出	小野木政子 田中安希子	—
11	平成28年10月16日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	14	安全を守る①	注意書き・標識・防犯・事故防止 についての語彙	田中安希子	—
12	平成28年10月23日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	10	安全を守る②	火災についての語彙	田中安希子	—
13	平成28年11月6日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	10	安全を守る③	救急車を呼ぶための 会話表現・語彙	田中安希子	—
14	平成28年11月13日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	10	人とかかわる①	印象的な自己紹介	小野木政子	—
15	平成28年11月20日 (日) 15:45~16:45	1	可児市総合会館分室	10	人とかかわる②	自己紹介で使える表現・発表	小野木政子	—
16	平成28年12月4日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	3	人とかかわる③	あいさつの仕方	小野木政子	—
17	平成28年12月11日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	5	作文コンテスト	予選通過した学習者が 会場で、作文を朗読	—	—
18	平成28年12月18日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	3	人とかかわる④⑤	あいさつ・言いにくい話を 言い出すときの表現	小野木政子	—
19	平成29年1月15日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	2	社会の一員となる①	市役所での会話表現・語彙	長谷川すま子	—
20	平成29年1月22日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	6	社会の一員となる②	ゴミ分別のための語彙	長谷川すま子	—
21	平成29年1月29日 (日) 15:45~16:45	1	可児市多文化共生センター	9	社会の一員となる③	行事・近所の人との会話表現・語彙	長谷川すま子	—

実施内容 ■子育て

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成27年7月9日 (土) 10:00~12:30	2.5	可児市多文化共生センター	9	日本の習慣について	・夏、遊ぶところは、危険がいっぱい ・タトゥーっていいの？ ・日本の学校のおたよりを 読んでみようⅠ	近藤利恵 吉田よしえ	近藤利恵 吉田よしえ 村上ウァネッサ
2	平成27年8月20日 (土) 10:00~13:00	3	可児市多文化共生センター	12	夏休みの過ごし方	・熱中症について ・日本の学校のおたよりを 読んでみようⅡ ・親子で工作作り	吉田よしえ	吉田よしえ 村上ウァネッサ
3	平成27年9月10日 (土) 10:00~12:00	2	可児市総合会館分室	10	絵本作り	・母語の大切さを学ぼう ・親子で母語の絵本作り	近藤利恵	吉田よしえ 村上ウァネッサ
4	平成27年10月15日 (土) 10:00~12:30	2.5	可児市多文化共生センター	24	給食体験	・エプロンシアターで栄養のお話 ・給食を体験してみよう	南谷弘子 吉田よしえ 菰田さよ 木原カリナ	西尾範子 近藤利恵 吉田よしえ 村上ウァネッサ 木原カリナ かみリングマルジ
5	平成27年11月5日 (土) 10:00~12:00	2	可児市福祉センター	37	救命講座	・消防士をお呼びし、救命措置を学ぼう ・玉入れを体験	〔講師〕 可茂南消防署 消防士 吉田よしえ	近藤利恵 吉田よしえ 菰田さよ 村上ウァネッサ かみリング・マルジ
6	平成27年12月17日 (土) 10:00~13:30	3.5	可児市福祉センター	15	お弁当講座	・日本の彩のよい栄養のとれた お弁当を作る	南谷弘子	南谷弘子 都築典子 木原幸子 吉田よしえ 菰田さよ かみリングマルジ 安田理英
7	平成28年1月14日 (土) 10:00~12:00	2	可児市 勤労者総合 福祉センター	18	性教育について	・発達障がい専門家の講師をお呼びし、 愛情あふれた子育ての方法を学ぶ ”愛のキャッチボールをしませんか”	〔講師〕 渡辺武子	吉田よしえ 菰田さよ 村上ウァネッサ かみリングマルジ
8	平成28年2月18日 (土) 10:00~12:00	2	可児市 勤労者総合 福祉センター	19	子育てについて	・子育てに悩んでいないか、異文化間 での情報を確認する ・日本での虐待の認識	〔講師〕 中濃子ども 相談センター 熊崎課長 吉田よしえ	吉田よしえ 菰田さよ かみリングマルジ 木原カリナ
9	平成28年3月11日 (土) 10:00~12:30	2.5	可児市 勤労者総合 福祉センター	19	小学校について	・小学校でのマナー ・持ち物の名前 ・入学式はどんな服装がよいか	宮代明代 菰田さよ	吉田よしえ 菰田さよ かみリングマルジ 木原カリナ 安田理英 渡辺幸子

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

日本語教室
【第4回 2016年5月15日】

近くにある100円ショップにご協力をいただき、100円ショップ内で、活動した。あまり聞いたことのない日本語の商品(まきす・じょうろ等)を探すこと、レジで「領収書をもらうこと」を各グループに課した。どこにあるか分からない場合は店員さんに「〇〇はどこですか?」という日本語を使って尋ねた。学習者はダイソーを利用することが多いため、いつも気になっていても分からなかった商品の日本語を、サポーターに聞く姿がよく見られた。普段、日本語をあまり意識しなくても出来る「ものを買う」という行為に対して、日本語を意識しながら買い物をすることが出来たと思う。また、ダイソーの店員さんも日本語教室として利用させていただくことを温かく歓迎してくださり、声をかけてくださる姿もあった。その次の週には、100円ショップ内で学んだ日本語を付箋に記入し、ダイソーの商品マップを作成した。



○取組事例②

日本語教室
【第23回 2016年11月13日】

日本語学習者のうち、技能実習生2名に講師をお願いし、ベトナム料理(ベトナム風春巻き)教室を実施した。ミールの会にも講師として入っていただき、講師同士、事前に打ち合わせをし、レシピの作成や当日の進行について話し合った。当日参加した学習者には、材料の名前や「(ライスペーパーを)まきます」、「混ぜます」など、料理に関わる基本的な動詞を作業をしながら学習した。学習者の感想は、「楽しかった」、「次は自分の国の料理をやってみたい」という声があり、ベトナム人2名からは、「自分の国の料理を様々な国の人に知ってもらえて嬉しかった」という感想だった。今後は、地域に住む日本人も呼んで、料理をきっかけに交流できるように展開したいと考えている。



子育ての日本語教室
【第3回 2016年9月10日】 テーマ:母語の大切さと絵本作り

来日して間もなく、子どもは、日本の学校で勉強し、日本語を習得すると家庭でも日本語で話すようになる。子どもの日本語は、みるみるうちに、保護者の日本語力を上回ってしまう。そして、子どもは母語を喪失し、保護者とのコミュニケーションがうまくいなくなる可能性が高くなる。将来的に、このようなことが起こらないように、保護者に母語の大切さについて、説明し、小さい頃から子どもにたくさん母語で絵本を読んでもらうように絵本を紹介したり、絵本作りを行った。



○取組事例②

【第8回 2017年2月18日】 テーマ:子育てに悩んでいませんか？

講師として、中濃子ども相談センターの専門の方をお招きし、「しつけと虐待」の違いについて話をしていただいた。外国の子どもの保護者に限らず、毎日、長時間労働をした後で、子育てをすることが大変だと思っている保護者は少なくない。保護者は時にはイライラして子どもやパートナーにあたることもある。子どもに対して、乱暴な行為が起きてしまう前に、相談をする窓口の紹介や、子どもとの接し方をアドバイスしていただいた。日本では、子どもに手を出すことは犯罪にあたることを伝えると、フィリピンの保護者から「フィリピンでは、子どものお尻を叩くことは当たり前。手は愛情を注ぐためのものだから、物を使ってお尻を叩く。お尻を叩かない親は、ちゃんとしつけをしていないと思われる。」という発言が多かった。子どもが父親に虐待されていることに悩んでいた母親が夫婦で、この子育ての日本語教室に参加した。講師の話聞いて、父親の子どもに対する態度が改善されたと母親から電話報告を受けた。



(2) 目標の達成状況・成果

〔日本語教室〕

日本語教室を通して、地域の人と交流が出来た。地域の方を巻き込む体験型学習は、身近なテーマだったことで、学習者から普段の生活に直結した日本語が学べて良かったという声が多くあがった。その反面、学習者が継続して日本語教室に来ないという課題が常にあった。指導者及びサポーターが用意した内容に満足していないのだろうか。学習者は、日本語を学ぶ動機や理由、目標をもって日本語教室に参加しているのだろうか、改めて知る必要がある。今年度、アンケートを作成し、実施した。アンケート結果をもとに、指導者やサポーター間で今後反映させ、教室運営の仕組みや授業内容を改善、検討していく予定である。

〔子育ての日本語教室〕

私たちの取り組みの一つとして、外国で子育てをする親を育てることも重要だと考えている。保護者の母国と日本の文化やルールは違い、教室でその違いを学ぶ。例えば、「時間」に関して。日本では集合時間の5分前に到着することが常識であること、親子で作る時間のゆとりは、心のゆとりにつながる。子どもの体と心を正常に成長させるために親の努力が必要であること。子どもの目と合わせながら話すことで、親からの信頼が生まれ、愛されていると子どもは感じる。子どもと目を合わせる方法を講師の方からいくつか紹介していただいた。子育ての日本語教室の実施を重ねていくうちに、この教室の大切さを保護者が感じとり、継続して参加する保護者が増えてきた。「知らない」ことをこの教室で「理解していく」こと。それが結果的に、子どもたちが、この地域でのびのびと生きることにつながる。保護者から、感謝の気持ちが電話で届けられたり、アンケートで伝えられたりする。私たちは、とても嬉しく感じている。

(3) 今後の改善点について

〔日本語教室〕

「継続して日本語教室に来ない」ということが、一番大きな課題である。昨年度からの改善として、体験型学習は、一回単発で終わるのではなく、体験型の前後に内容を関連付けて3回程度のシリーズ化したことで、テーマを深く学習できるようにした。それによって、学習者が継続して学びに来てくれるのではないかと期待したが、ほとんどの学習者はそうではなかった。日本語教室に来て「何ができるようになるのか」「生活の中で、学習した内容が活かされるのか」を明示させていく必要があるのではないかと感じた。また、教室を実施していくうちに、どんな教室でありたいかという考え方が教室メンバー間で食い違っていることが分かった。教室の方向性の十分な話し合いが必要であり、次年度から試行するポートフォリオの実施を含め、学習者一人一人に向き合った教室運営を心がけたい。

〔子育ての日本語教室〕

チラシに年間スケジュールを織り込み、取り組み内容を事前に周知させる。もっとたくさんの方々が参加できるようにしたい。次年度は、早めに講師と日程を決定し、定期的に協会ホームページに「子育ての日本語教室」をアップする。

<取組3>

取組3	取組の名称		演劇ワークショップで伝える防災						
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・可児市の防災訓練との連携訓練の定着 ・人材育成として、多文化演劇ユニットMICHIのメンバーにワークショップのバリエーションとバージョンアップをしてもらう ・近隣地域の国際交流協会と連携することで、災害時の連携に備える 						
	取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> ■演劇手法を用いた防災ワークショップを通じて、防災意識を高めながら、緊急時に必要な情報伝達と日本語の習得 ・防災ワークショップの開催 全5回 <ul style="list-style-type: none"> ①日本語教室 1.5H×1回、2.0H×2回(防災ワークショップ2回・防災まちあるき1回) ②近隣地域(美濃加茂市岐阜県立加茂高校) 2.5H×1回 ③ブラジル人学校(美濃加茂市イザキニュートン校) 2.0H×1回 						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		<ul style="list-style-type: none"> ・多文化演劇ユニットMICHIとの連携と既存の日本語教室の学習者を巻き込み、支援者の意識も高める ・今後の広域連携をめざし、近隣の地域での開催を広げていく ・可児市の防災訓練と連携し、繰り返し訓練をすることで、さらに防災意識を高めていく 						
	取組による日本語能力の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に使用される日本語は、日常生活では使わない言葉も多いので、最初に言葉と意味を確認してから、「ワークショップ」「まちあるき」中に何度も何度も使用することで言葉の定着を図った。 ・「まちあるき」では、防災士を各グループに1名以上配置し、危険な場所・安全な場所で解説していただいている。防災意識の定着ももちろんであるが、通常の日本語教室の支援者以外の日本語にふれ、会話を楽しむことで、学習者のまわりにいる日本人との新たなコミュニケーションの手助けになればと考えている。 						
	参加対象者		日本語学習者および支援者	参加者数 (内 外国人数)		120人 (104人)			
	広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政						
	開催時間数		総時間 10 時間 (空白地域 0 時間)						
	主な連携・協働先		土曜日・日曜日日本語教室、可児市防災の会、岐阜県立加茂高校定時制、ブラジル人学校イザキ・ニュートン校、地域住民						
開催場所		可児市多文化共生センター、岐阜県立加茂高校、ブラジル人学校イザキ・ニュートン校							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		4	24	0	0	20	3	0	51
		アメリカ(1人)、バングラデシュ(1人)、日本(16人)							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年9月3日 (土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化共生センター	16	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ある外国人一家の災害発生時の行動を見ながら、備えることの大切さを確認 ・災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える 	山田久子 住吉エリオ 村上ウァネッサ	細田チアゴ

2	平成28年9月4日 (日) 13:30～15:30	2	可見市多文化共生センター	27	防災	<ul style="list-style-type: none"> ある外国人一家の災害発生時の行動を見ながら、備えることの大切さを確認 災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える 	山田久子 住吉エリオ 村上ウァネッサ	中美保子 細田チアゴ
3	平成28年9月11日 (日) 13:30～15:30	2	可見市多文化共生センター	19	防災まちあるき	<ul style="list-style-type: none"> 決められたルートに沿って歩きながら、チェックポイントを探して歩く。 チェックポイントは災害時に危険な場所や役に立つ物などを設定。実際に場所や物を見ながら説明を聞く。 	山田久子 住吉エリオ 村上ウァネッサ 朝日秀男	長谷川あつ子 杉元賢人
4	平成29年2月22日 (水) 17:30～20:00	2.5	県立加茂高校 会議室	34	防災	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える 	山田久子 住吉エリオ	-
5	平成29年2月27日 (月) 8:00～10:00	2	イザキ・ニュートン 校	24	防災	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える 	山田久子 住吉エリオ	-

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成28年9月4日】(防災ワークショップ)

- ある外国人家族の地震発生時の様子をお芝居で見てもらい、この家族が全員無事に避難するためにはどのように行動すればよかったのか、どんな日本語を知っていたらよかったのか、家が倒れそうな時にはどこへ行けばいいのか、そして、何が 필요한のか考えることで、災害に備えることの大切さを確認した。
- 災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)については、イス取りゲームの要領で言葉や災害発生時に聞こえてくるであろう音に対応した初期行動を素早くとれるよう繰り返し練習をした。
- 災害時に助けてくれる場所として避難所を紹介し、その避難所に行く際、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、自分にとって必要なものを考えた。
- WSでみたお芝居は休日のある日という設定であったが、これが平日だったら？ 早朝だったら？ 夜だったら？ 自分はどの行動すればいいのか問いかけ、それぞれに考えてもらった。



○取組事例②

【第4回 平成29年2月22日】(防災ワークショップ)

- ・可児市の近隣地域の一つ、美濃加茂市にある岐阜県立加茂高校定時制で2年生を対象に実施した。
- ・2年生全体の半分強が外国人で、今年度「高校生防災リーダー」活動の取組を行っていたことから更なる防災意識の定着とクラス内の新たな仲間作りを目的に実施した。
- ・外国人生徒の日本語理解度は様々であったが、全編日本語のみで実施し、わからない場合は質問をするか、クラスメイト同士で助け合うこととした。
- ・様々な問いに対して、同じ答えの人をさがすゲームを行い、災害時には困り事などはまず伝えることから始めることを確認した。
- ・災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)については、イス取りゲームの要領で言葉や災害発生時に聞こえてくるであろう音に対応した初期行動を素早くとれるよう繰り返し練習をした。
- ・災害時に助けてくれる場所として避難所を紹介し、その避難所に行く際、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なもの・使えるものを考えた。更に犬や寝たきりの高齢者が一緒にいる場合を考え直すことで、自分にとって何が大切なのか、ここにいる人たちに何が必要なのかを考えた。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・地域連携として、新たに岐阜県立加茂高校定時制で防災WSを実施した。多文化演劇ユニットMICHUとしても日本の高校(学校)で実施することは初めてである
- ・「まちあるき」では、最後に全体のふりかえりを行ったが、危険な場所や安全な場所について防災士から聞いた話を他の人達に説明することが出来ていた。
- ・「防災ワークショップ」では、ある外国人家族の地震発生時の様子をお芝居で見せたことで、お芝居の中のことだけでなく、自分の生活と照らし合わせた時に気になることなどの質問がたくさん出ていた。より自分の身近な問題としてとらえてもらうことが出来たと考える。
- ・時間の関係でアンケートの実施ができなかったが、その分振り返り等で参加者からの質問に答え、参加者間での問題の共有も出来ていた。このことから、取組目標については概ね達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

- ・「防災ワークショップ」「まちあるき」ともに、参加者からの質問が数多くできるようになり活発なコミュニケーションが行われるようになったが、その分時間がかかってしまった。ゲームを削除したり、アンケートを取れなかったりしているので、時間配分の再検討が必要である。質問の内容によっては、終了後に改めて質問に答えるなどの対応も必要である。
- ・より深い理解を目的に、通訳をMICHUメンバーが入れることができる時に入れているが、すべての言語に対応している訳ではないので、不公平になっていないか、通訳を入れる場合にはどこまで入れるのか再検討が必要である。

<取組4>

取組4	取組の名称		日本語見本市							
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の取組の成果発表を行う。 ・他団体の教室と情報交換することにより、情報収集し、教室の見直しを図る。 							
	取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県内外の日本語教室が一堂に会して、教室の取り組みや活動の紹介を行う。日本語学習者も参加し、学習した成果を発信する。 ・本事業の取組 成果報告会、学習者による成果発表 及び 他団体 事例報告会（来場者には、着席形式で発表を聞いてもらう） ・当協会が運営する教室の子どもたちのステージ発表 ・パネル出展団体による活動報告〔22団体・教室〕 							
	<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	本事業の取組 成果報告会の中で、空白地域の取り組みを発表した。							
	取組による体制整備		出展ブースで取組内容を発信することにより、来場された行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者、日本語学習者に本事業の大切さを知ってもらうことができる。							
	取組による日本語能力の向上		発表するために、再度、きちんとした日本語を学ぼうする姿勢が得られ、習得につながる。							
	参加対象者		日本語学習者、指導者、行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者	参加者数 (内 外国人数)		250人 (135人)				
	広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政							
	開催時間数		総時間 4.5時間(空白地域 1.75時間)							
	主な連携・協働先		可児市役所、可児市教育委員会、岐阜県国際交流センター、恵那市国際交流協会、日本語ボランティア「鮎の会」、土岐市国際交流協会、郡上市国際交流推進協議会、トルシーダ、かにえ子ども日本語の会、Vivaおかざき！！、シェイクハンズ							
開催場所		可児市多文化共生センター								
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		2	1			61			70	
		台湾(1人)、日本人(115人)								

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年2月26日 (日) 10:30~12:15	1.75	可児市多文化共生センター	—	成果報告 事例報告	<ul style="list-style-type: none"> ・取組1~3及び空白地域 成果報告 ・恵那市国際交流協会における日本語教室の事例報告 	[発表者] 大澤まゆみ 菰田さよ 住吉ベドロ 徐子茜 キュウウハオ ナシメントビビアナ 小野木政子 フナバシセルジオ 吉田よしえ 山田久子 近藤利恵 松永晴美	—

2	平成28年2月26日 (日) 12:15~13:00	0.75	可児市多文化共生センター	—	ステージ発表	教室で学んできた成果や 母国の文化を歌と踊りで 表現し、発表	—	吉田よしえ 宮代明代 かリンガマルツ 木原かけ 渡辺幸子 山田久子 渡邊麻衣
3	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[取組2:土曜日日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	大澤まゆみ	
4	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[取組2:日曜日日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	菰田さよ	神谷明子 古沢光子
5	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[取組2:中上級日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	—	小野木政子 田中安希子 長谷川すま子
6	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[取組2:子育て日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	(吉田よしえ)	—
7	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[取組3:演劇WSで伝える防災] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	山田久子	住吉エリオ
8	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市:ばら教室KANI] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	(大口裕子) 加藤エリオ	—
9	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[岐阜県国際交流センター] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	(木村美穂) (早川順子)	—
8	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[恵那市国際交流協会] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	松永晴美	—
9	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[岐阜市:鮎の会] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	藤田いづみ	堀照和
8	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[土岐市国際交流協会] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	籠橋一貴	—
9	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[郡上市国際交流協議会] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	(地口雅倫)	—
8	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[豊田市:トルシーダ] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	伊東浄江	—
9	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[かにえ子ども日本語の会] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	川崎 直子	木附京子
8	平成28年2月26日 (日) 13:00~15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[Vivaおかげさき!!] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	森下裕介	鈴木美帆

9	平成28年2月26日 (日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市国際交流協会 高校進学支援: さつき・かがやき教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	湯浅美礼	—
8	平成28年2月26日 (日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市国際交流協会 小中学校就学支援: ゆめ教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	林里美	—
9	平成28年2月26日 (日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市国際交流協会 就学前事前準備指導: おひさま・ひよこ教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	宮代明代	吉田よしえ 木原カリナ 渡辺幸子
8	平成28年2月26日 (日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市国際交流協会 小中学校に通う補習支援: きぼう教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	河村佳予子	安居純
9	平成28年2月26日 (日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市国際交流協会 子どもの日本語教室: つばめ教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	渡邊麻衣	(山田久子)
8	平成28年2月26日 (日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター	—	パネル活動報告	[可児市国際交流協会 子どもの語学教室: サンペレレ] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題を 発表する	坂江レアンドロウキ	セヤマテリジ 阿久津エウガ 岸本ユミ シノカカミ

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【2017年2月26日】

日本語見本市では、午前中に、本事業の取組成果報告会を行い、各教室コーディネーター及び指導者、日本語学習者が発表した。その他、(岐阜県)恵那市国際交流協会の日本語教室の事例報告、昼食時には、当協会の子どもの日本語教室の子どもたちが、歌やダンスを披露して、会を盛り上げてくれた。午後には、当協会の日本語教室、県内、県外の日本語教室 20団体・教室が、ブースにてパネル展示、活動報告を行った。来場者は、250名。うち、外国人が130名。



学習者による成果発表



恵那市国際交流協会の事例報告



パネル展示・活動報告



子どもの歌とダンスの披露



来場者の様子

(2) 目標の達成状況・成果

午前中の成果報告会には、午後からのブース出展団体も全員参加して下さったため、たくさんの方々に聞いていただくことが出来た。行政、学校関係者、地域住民など様々な方が、来場され、本事業の取組を周知させることが出来た。

[アンケート結果より]

- ・いろいろな教室の取り組みを直に伺って充実した内容でした。
- ・可児市外の地域の活動も知ることが出来て良かったです。
- ・今日、可児市多文化共生センターに来て、日本語見本市に参加して、本当に感動しました。いろんな国の方が集まって、必死に日本語で伝える姿を見て、私も頑張らなくてはという思いになりました。
- ・凡人社の出店や、各交流団体の発表ブースなど、自分の教室の活動運営に参考になることが多かった。
- ・外国の人が日本語への意欲があり、一生懸命勉強していることを知りました。
- ・いろいろな教室があり、参考になった。各取組の報告が分かりやすく良かったです。
- ・日本語学習者の発表、お話しは大変良かったと思う。それぞれの教室の説明で、その違いがよく分かった。
- ・可児市国際交流協会のそれぞれの教室の内容や課題、来年度の方向が確かめられた。
- ・学習者の生の声が聞けた。〇〇のために、何をどうやって勉強したらいいかとアドバイスを求めて来た方が数名あった。講師からいくつか提案しました。
- ・午前中の報告では、日本語教室のあり方をレベル別教室間の連携のし方、問題をあぶり出すように話し合うこと、また、お客ではない生活者の日本語や生活相談をいかに日本語教室へつなげるか、お互いの文化の良さを知るばかりではなく、どちらのやり方、子育ての方法も、どちらも認め合うことの重要性が生まれること。が聞けた。その取組が素晴らしいです。
- ・子育ての日本語教室の内容が興味深かったです。特に「母語の絵本を作る」は、夏休みの自由研究に使ってはどうかと思いました。教室の出席率を上げるための対策についても興味深かったです。各市、国際交流協会が母体として活動して、体制(経費面でも)が、しっかりしているところが、羨ましいと感じました。
- ・可児市の取組は参考にさせていただきたいと思いました。子どもたちに対する支援がとても素晴らしいです。
- ・可児市が外へ発信するものがとても多いことが分かりました。
- ・多くの参加者が期待しているのは、他の団体の各種取組を知ることだと思います。同時に自分たちの取組を少しでも多くの人に知ってもらいたいということだと思います。ブース、発表ともにそのニーズに十分応えていたと思います。ありがとうございました。
- ・いろいろな地域の日本語教室を見ることが出来ました。その地域や実情に合わせて教室の形が、変わってきたんだろうと思うと、正解は一つではないのだと改めて感じました。
- ・工夫がされていて面白かった。
- ・日本語見本市では、日本語学習者についての課題がよく分かりました。各ブースは共通した問題点がある。教室に続けて通わなくなるとか、どんな目標がある。など。
- ・ブースで情報をたくさん収集できて、とても良かったです。

(3) 今後の改善点について

取組の成果報告をシンポジウムのような形にすると、参加者が非常に少なくなる現状を回避するために、参加者が楽しく情報収集できるような形にした日本語見本市も今年度で3回目になった。時代と地域の実情に合わせた教室運営が出来るように、関わる指導者(支援者)に、ブラッシュアップをしてほしいと願うが、研修や養成講座に参加するなど、なかなか実現されない現状がある。日本語見本市では、人材育成という観点からそれを補えるように、同じような実情を抱えた団体や、目指すところが同じ団体などに出展を依頼し、他団体の活動を学べるように目的を図った。しかし、参加する指導者(支援者)は、だいたい同じであり、この取組にも課題が残る。来年度は、趣向を変える必要がある。

<空白地域>

空白地域	取組の名称		坂祝町日本語サポーター養成講座						
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> 坂祝町役場及び坂祝町教育委員会への働きかけにより、外国人支援のネットワークを作る。 日本語支援者になるための呼びかけ及び養成 						
	取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> 坂祝町役場に在住外国人の現状をヒアリング、及び日本語教室の必要性を考える。 今後、日本語教室を開催するために、坂祝町役場の担当者と連携がとれる関係作りを行った。 日本語教室の立ち上げに関心のある受講者を募り、坂祝町日本語サポーター養成講座を4回実施した。 						
	<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	上記のとおり						
	取組による体制整備		将来的に、坂祝町が自立して、日本語教室が開催できるように、今年度から連携構築を図る。						
	取組による日本語能力の向上		特になし						
	参加対象者		坂祝町 及び 坂祝町近隣地域在住外国人、外国人を支援したい人、坂祝町役場	参加者数 (内 外国人数)		16人 (4人)			
	広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、FMらら						
	開催時間数		総時間 8 時間(空白地域 8 時間)						
	主な連携・協働先		坂祝町役場、坂祝町教育委員会、地域住民						
開催場所		坂祝町中央公民館							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		4							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		日本(12人)							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年1月29日 (日) 10:00~12:00	2	坂祝町 中央公民館	7	養成講座Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 在住外国人をとりまく背景 <ul style="list-style-type: none"> 地域の現状 地域日本語教室の役割 <ul style="list-style-type: none"> 地域日本語教室とは 日本語サポーターの役割 <ul style="list-style-type: none"> みなさんをつくる日本語教室 	各務眞弓	近藤利恵 登田アツナ
2	平成28年2月4日 (土) 10:00~12:00	2	坂祝町 中央公民館	9	養成講座Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育と地域日本語教育 伝わる日本語 お互いの文化を知ろう 母語の重要性 やさしい日本語:実践 	近藤利恵	登田アツナ
3	平成28年2月18日 (土) 10:00~12:00	2	坂祝町 中央公民館	6	養成講座Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> 教材紹介 ニーズ・レディネス調査 	近藤利恵 〔発表者〕 パトリア・リベイロ オチアイ・カレン ワダ・ヒデリ・フェルナンド 村上ウァネッサ	登田アツナ 村上ウァネッサ
4	平成28年3月4日 (土) 10:00~12:00	2	坂祝町 中央公民館	5	養成講座Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ・レディネス分析 教室を立ち上げるために必要なこと 	近藤利恵	登田アツナ

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 2017年1月29日】

坂祝町住民や、坂祝町教育委員会が受講。
地域の現状をはじめ、地域日本語教室や日本語サポーターの役割を知り、皆さんと日本語教室を作るためのノウハウを学ぶ。



○取組事例②

【第3回 2017年2月18日】

日本語教室開講にあたって、日本語学習者に直接、どんな日本語教室が必要か、何に困っているかなどニーズをヒアリングした。在住外国人の方々は、いろんな質問に熱心に答えてくれた。



(2) 目標の達成状況・成果

日本語教室開講に向けて、坂祝町役場に働きかけを行った。顔合わせ会議では、講師、本事業の統括コーディネーター、坂祝町役場の担当課が出席したが、初回から好感触が得られ、すぐに役場内では体制が整えられた。役場の担当者は、日本語サポーター養成講座の呼びかけをFMららで放送するなど、積極的に本取組を受け入れてくれた。しかし、受講者は、日本語教室立ち上げに関わることが必須条件で、坂祝町教育委員会や現教員、以前教員、諸団体の長など、在住外国人と以前から関わりがあるため、日本語教室の必要性を感じている方や外国人とどのように接したらいいのかという方など、関心にばらつきがあり、講座を進めるにあたって、焦点を絞ることが難しかった。日本語教室立ち上げにあたって、外国人にヒアリングさせてもらう機会を設けたが、外国人も日本語教室開講を期待しており、フェイスブックなどでヒアリングの重要性を盛んに呼びかけてくれたり、前向きに出席を検討してくれた。

[アンケートより]

- ・教室を単にスタートさせることは、簡単だと思いますが、いかに魅力のある教室を作り、継続させるかが課題となると思います。町内在住の外国人の方々のニーズを把握することが大切だと思います。日本に住んで、坂祝に住んで実際に困っていること、望んでいること等、本音を知る必要があると思います。
- ・坂祝町を含めた中濃地域に、こんなに大勢の外国人がいるとは、思いませんでした。そして、みなさん強い意志をもって、講座を受けていたので、感心しました。私も、そして坂祝町を含めた中濃地域の人も外国人の人に対してもっと考えなければならないことがあると感じました。
- ・仲間を増やしていきたい、参加者を一人でも二人でも増やしていきたいと思います。
- ・改めて、自分が使っている日本語がでたらめか思い知らされました。
- ・外国人の捉え方をお教えたので、勉強になりました。やさしく、分かりやすく伝えることの難しさが分かりました。
- ・文化の違いでお互いが少し歩み寄ることが十分に可能であることが、とてもよく分かりました。
- ・実践的なイメージがわく内容で面白かったです。
- ・「そうだったのか」「やっぱりな」と思うことが多く、大変勉強になりました。今回は中学校長が参加をしてくれました。「保育園・幼稚園・小学校の先生方にも理解してもらいたい内容だった」という共通の感想をもちました。
- ・日本人としてずっと生活していると、まわりくどい言い方や伝えたいことの前にいろいろな言葉や文があっても分かるが、簡単な言葉しか伝わらない外国人の方には本当につらい文章だということが分かった。今は、〇〇小学校には通訳の先生に恵まれているため、各学年の通信も翻訳していただいているが、少しの工夫で(歩み寄り)で伝えることができるのだと学んだ。日本人側のサポートの工夫が大切だと思った。
- ・お二人のブラジルの方と話して、良かったです。たくさん話してくれたので、意義のある時間となりました。
- ・全く日本語が分からない人たちにヒアリングをしたので、本当に困っていることや、必要とする教室について知ることができ、大変参考になりました。

(3) 今後の改善点について

次年度スタートアップを活用しながら、日本語教室開講に向けて準備を行っていく予定でいたが、もう、今すぐにでも日本語教室を作りたいという思いが強かった。教えることがプロである現教員、今後、運営主体になる町役場、その中に初めて外国人と関わりをもちたいと思っている住民の方。役割分担が出来ているようだが、初めて関わろうとしている住民の方が、この日本語教室の運営に受身になってしまうことは避けたいと思っている。関わる皆が一丸となって、立ち上げるためには、次年度、講師(本事業統括コーディネーター)と受講者という隔たりはないようにし、皆で話し合っ決めていけるようなミーティングを行い、開講に向けて準備していきたいと考えている。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

今後も外国人の受け入れによる人数増加や定住化傾向が高まると考えられ、日本で生まれ育った子どもたちは、日本での進学や将来の夢を抱くであろう。子どもが安心して学校に通い、安心して生活を送るためには、親への働きかけが重要になってくる。この親たちをはじめとして、地域に暮らす生活者としての外国人には、ただ単に日本語を習得するだけでなく、様々な日本文化も理解してもらいたい。指導者からの一方的な詰め込みではなく、お互いの文化を享受するための機会として、地域日本語教室の役割は大きい。人材育成という観点で、外国人(学習者)も日本人(指導者・サポーター)も主体性、自立性をもった能力の向上が図れるように本事業で切磋琢磨しながら、個人的能力の発揮へとつなげていく。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

土曜日・日曜日・中上級の日本語教室においては、従来、単独で運営していたが、教室間に連携を持たせるために教室リーダー会議を行い、運営方法を見直した。それと同時に、教室間に一貫性を持たせれば、学習者が全ての教室に通いやすくなるのではないかと考えた。教室リーダー会議を行うことによって、各リーダーが、学習者を地域の人材として育成していくという意識が変わっていったことが、大きな成果である。次年度は、学習者一人一人をポートフォリオによって、ファイルを管理していき、継続的に日本語教室に通えるような仕組みを試行する。今年度、子育ての日本語を新たに取り組の一つとして加えた。保育園や学校、ママ友、地域住民とトラブルを起こしてしまうのは、日本語が話せないからではなく、単に日本式のマナーやエチケットを知らないからである。でも、一方的に日本式の文化を詰め込むのではなく、日本人側も学習者の文化を知り、どこでトラブルが起きやすいのかということを知りながら、日本語教室を進めた。その上で、それに伴う日本語を学習するという形にした。チラシを早くから関係各所に配布したのにも関わらず、学習者は増えなかったが、一度参加した学習者は、継続的に出席していた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語教室で、100円ショップに出向いて、店員の協力のもと、日本語学習活動を行ったり、子育ての日本語で、子ども相談センターや発達支援の専門家の方々に子育ての授業をしてもらったりする中で、店員や講師が学習者の考えや習慣を知り、これから外国人とどのように接していけばいいのか、どのようなことで悩んでいるのかを学ぶことが出来た。学習者は、日本語や日本文化を学習する。そして、受け入れ側も相手の文化を理解することが、地域でお互いが気持ちよく生活できることではないかということが、日本語教室を通して、学習者も支援者も分かるようになった。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語見本市を行うことによって、本事業の成果報告、各教室の活動報告が行えた。日本語見本市に関心をもってもらえるように、可児市の取組だけでなく、参考にしたい団体に多数ブース出展していただき、活動報告を行ったり、学習者による発表や多国籍の料理、凡人社の出店など、工夫を凝らした。日本語見本市をはじめ、日本語教室の開催日が掲載されている多言語情報誌は、月1回発行し、外国籍児童生徒の保護者に直接渡すように小中学校と連携が常時取れている。また、日本人向けには、月2回のメルマガ発信やFaceBookの活用など幅広く、コンスタントに情報発信した。

(6) 改善点、今後の課題について

学習者が日本語教室に継続して来られるような仕組み作りの一つとして、日本語力を評価する日本語能力判定基準を設けることに奔走していたが、会議を重ねていくうちに、日本語判定するよりも以前に日本語教室で「出来ること」と「出来たこと」を可視化すれば、学習者は、習得したことが分かりやすくなり、次への意欲とつながるのではないかと。ポートフォリオによって、ファイル管理をすることに話がまとまった。しかし、これを実行するためには授業形態を見直さなければならない。3つの教室に一貫性を持たせるためには、3つの教室を抜本的に改善しなければならない。新しい取組や、ポートフォリオを運用するための資料を今後継続的に誰が作成していくのかなど、支援者への周知と理解が不可欠となる。また、ポートフォリオは、学習者の個人カルテに代用するものでもあり、継続して学習すればするほど、行政・地域住民・地域の企業の方々に、日本語学習の履歴を評価してもらえるようにしたいと考えている。どのような方法で伝えていくかが課題である。

(7) その他参考資料